

『国際支援って、必要？』

所属	静岡県浜松市立細江中学校	実践者	矢部 航一郎 (L)
対象	中学2年生	時間数	7時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間・道徳
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後発発展途上国(主にラオス)の生活や文化と肯定的に出会い、日本とのつながりを知る。 ・ 国際支援をする側とされる側の双方の立場で考え、支援を考える上で大切なことを模索する。 ・ 世界のことをもっと知りたいと関心を高め、さらに、自分の生まれ育った国:日本を好きになる。 		
実践内容	回	プログラム	備考
	第1時	【ラオスを知る・ゴミ処理問題から考える】 ・ アイスブレーキング ・ ラオスについて TV 動画から知る。 ・ 国際支援と聞いて想像できる支援の具体的内容を挙げる。 ・ 日本の支援で運営されるラオスのゴミ処理施設を想像して描く。	TV「未来世紀ジパング ラオス」(テレビ愛知) ゴミ処理施設の写真の一部を隠したもの
	第2時	【貿易ゲーム ～先進国・発展途上国・後発発展途上国～】 ・ 先進国・発展途上国・後発発展途上国(グループ)、及び、国連(2人)の立場にそれぞれ分かれてグローバル経済を疑似体感。	「貿易ゲーム」(クリスチャン・エイド)
	第3時	【ゴミ処理問題を題材に、支援を受ける側に立って考える ～そこにいる人・もの・課題・支援～】 ・ フォトランゲージ(ステレオタイプな捉え方が危険であると感じる) ・ 現地の人にとっての課題と本当に必要とされる支援を考える。 ・ どんな支援が有用かを練り上げる(グループによるブレインストーミング)。	エチオピアの写真(ユニセフ) ウエストピッカーの写真 少数民族の写真 ラオスの数学教科書
	第4時	【現場で国際支援をしている人を知る】 ・ 人の役に立つ(後:国際支援につながる)仕事を挙げる(KJ法)。 ・ 各分野で支援活動に従事するラオス滞在日本人の生き様や考え、夢に触れる(看護・児童への環境教育・スポーツ指導・障害者支援)。	ラオスチームで取材した、青年海外協力隊の方々などのインタビュー 一動画、活動地の写真
	第5時	【不発弾処理から考える国際支援】 ・ 不発弾の怖さを知り、それが生活と隣り合わせである恐怖を実感。 ・ 不発弾除去にかかわる日本や各国に支援について知る。 ・ 日本(沖縄・浜松)にも不発弾問題は依然として存在することを知る。	爆弾の殻の実物 不発弾紹介動画(LUXO Laos) 不発弾危険啓発ポスター 夏休み課題(戦争調べ) 沖縄不発弾ニュース動画
	第6時	【支援を考える上で大切なこと・支援をする日本の国益】 ・ 上記いずれかのテーマでグループごとブレインストーミングを行い、発表。 ・ 支援をする側の国益も考えつつ、国際支援を多角的に捉えなおす。	
	第7時	【まとめ・感想】 ・ パラオなどへのODAを知る。 ・ 総括的な考察を文にしたためる。	ラオス・比・パラオの写真
成果	『国際支援』を切り口に、支援は必要か、どのような支援が有用かを考える過程で、生徒は国内外の多くのことを考えてくれた。子どもが自分なりの考えを毎時間もてたことがなによりの成果。感想は多岐にわたるが、子どもたちに、世界に目を向ける『種』を撒くことができたと感じる。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ あれもこれもと紹介するのではなく、提示資料の精選も学びを深めるためには重要と感じた。 ・ 年度当初から年間計画にはなかった活動で、もっと多くを扱いたかったが時数の創出に苦労。 		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの立場の違いをより強く意識するため、敢えて国際『協力』ではなく『支援』とした。 ・ 子どもに授業後の感想と、国際支援の必要の是非とその理由について全時で書かせた。 ・ 第3時のみ道徳(価値項目:思いやり・協力)として実践。その他の授業は総合として行った。 		

[授業実践の詳細]

1 時限目「ラオスを知る・ゴミ処理問題から考える」

1 子どもの活動の流れ

- ① アイスブレイキング
(背中に貼られた動物について互いに質問し合い、当てる)
- ② ラオスのことを特集した番組の冒頭部分を見て、ラオスについて知る。
- ③ 国際支援と聞いて想像できる支援の具体的内容を挙げる。
- ④ 日本の支援で運営されるラオスのゴミ処理施設(埋め立て場・有機処理施設・下水処理施設)の一部を隠した写真を提示し、その隠された部分をグループで想像して描く。
- ⑤ 本時の感想と、国際支援は必要かについて自分なりの考えを感想用紙に書く。

この時限のねらい

ラオスという国について知り、イメージを膨らませる。国際支援を受けている国やその支援の実態を知り、自身が予想した支援の様子と違う原因を考えることができる。



(有機処理施設を想像して描く)

2 子どもの活動の成果・反応 (◆…子どもの感想記述より抜粋)

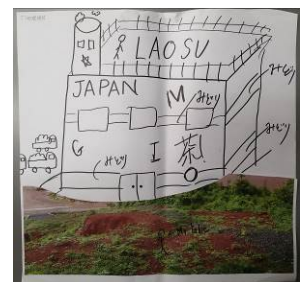
- ◇ アイスブレイキングは、新しい学びが始まる高揚感を演出する一助になった。
- ◇ TV 番組を見せることで、ラオスに住む人々や国の様子、直近の課題などを子どもたちにわかりやすく伝えることができた。ただ話して紹介するよりも効果的であったと思う。
- ◇ 医療や教育・ライフラインの整備やそれにかかる経済的援助など、子どもたちは予想していたよりも多くの分野についての国際支援を挙げるができていた。ただし、「例えば？」と少し深く掘り下げるとなかなかその具体的支援内容までは挙げるができなかった。
- ◇ 「日本の支援によるゴミ処理施設」と聞いて、ほとんどの子どもたちは立派な建物を想像して描いた。屋外の有機処理施設や沈殿濾過されるのを待つタイプの下水処理施設の写った正解の写真を見て、皆一様に驚いた様子であった。
- ◆ ラオスは、日本とは全然違ってビックリした。下水道がそのまま流れていたりすることは日本では絶対ないけど、そういう国もあるんだと初めて知ることができたので良かったです。



(話し合いの様子)

3 使用した教材

- <教材1> TV「未来世紀ジパングラオス」(テレビ愛知)の冒頭部分を一部編集した動画
- <教材2> 世界地図
- <教材3> ゴミ処理施設の写真 3枚



(「JAPAN」のロゴ入りの立派な施設の想像画)

2 時限目「貿易ゲーム ～先進国・発展途上国・後発発展途上国～」

1 子どもの活動の流れ

- ① <授業前準備> 2グループからそれぞれ1人ずつを国連及び世界銀行役として選出する(その2人とは事前に打ち合わせを行う)。
- ② 先進国(2グループ)は豊富な仮想通貨(資産)や道具(技術)、ごく少量の紙(資源)を受け取る。発展途上国(2グループ)は中程度の仮想通貨と道具、豊富な紙を受け取る。後発発展途上国(2グループ)の受け取る物は、そのどれもが少ない。
- ③ グループで協力して決められた紙の製品を作る。その際に必要な物は他グループと交渉(外交)して得る。作った製品は国連で貨幣に変える。
- ④ 途中途中で国連役から出る製品の買い取り価格の変動・物の受け取り(支援)・情報カード(情報)の提示などの新たなシチュエーションに対応しつつ、グループそれぞれに仮想通貨をより多く稼ぐことを目的に活動する。
- ⑤ 本時の感想と、国際支援は必要かについて自分なりの考えを感想用紙に書く。

この時限のねらい

グローバル経済を疑似体験することで、後発発展途上国が自力で豊かになるのはとても大変であり、先進国との経済的格差が広がりやすいことを実感することができる。後発発展途上国の非常に苦しい様を感じることができる。



(活発な外交 有利に進めようと必死)

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 予測通り、先進国グループはすぐさま活動に入れたが、後発発展途上国グループは何から解決していけばいいのかわからない様子であった。
- ◇ 子どもたちは非常に活発に物や仮想通貨の交換の交渉を行った。どの子も夢中になって活動していた。
- ◇ 巧みに交渉して先進国を凌ぐ発展途上国グループも現れたが、後発発展途上国が自国の力だけで発展していくのは大変だと感じる事ができた様子であった。
- ◆ 発展途上国と先進国の差はとても大きいと思った。どれだけいい道具(技術)を持っているかが大きかったと思う。もちろん経済力も大切!
- ◆ 私たちの班は後発発展途上国で、とても貧しかった。私が実際にこの国の人なら「もう、やだ!」と思っていると思う。



(子どもだけでなく ALT も活動に参加)



(国連の介入 この支援は果たして有用?)

3 使用した教材

<教材1> 貿易ゲーム(クリスチャン・エイド) <教材2> 仮想通貨・ハサミ・コンパス・紙・情報カード など

3 限目「ゴミ処理問題を題材に、支援を受ける側に立つて考える

～そこにいる人・もの・課題・支援～

1 子どもの活動の流れ

- ① エチオピアの子どもたちの写真でフォトランゲージを行う。
- ② ラオスに立派だが運営にはノウハウやコストのかかるゴミ処理施設が支援によって建てられた場合を想定して話し合う。
- ③ 現地の人たちにとって本当に必要とされる支援を考える。
- ④ 本時の感想と、国際支援は必要かについて自分なりの考えを感想用紙に書く。

この時限のねらい

支援を受ける側の立場に立って、有用な支援のあり方を考えることができる。〈道徳：思いやり・協力〉

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 前時までは支援をする側(日本)の視点から国際支援を捉え考えていた子どもたちが多く、支援を受ける側の実態に応じて支援の形を考えることが重要だと気づかせることができた。
- ◇ 支援はし続けるべきものではなく、相手の自立を促すために行うことが大切だと主張する子が出た。
- ◆ 国際支援は、支援する国についてちゃんと理解していないと意味のないことになってしまうと思いました。
- ◆ 国際支援は必要だけど、ほどほどにしないと支援される国の成長はないと思います。

3 使用した教材

<教材1> 穀物の中で遊ぶ子供たちの写るエチオピアの写真(ユニセフ)

<教材2> 1時間目にグループで描いたゴミ処理施設の想像画

<教材3> ラオスのウェイストピッカーの写真 <教材4> ラオスの少数民族の子どもたちの写真

4 限目「現場で国際支援をしている人を知る」

1 子どもの活動の流れ

- ① 人の役に立つ仕事をたくさん挙げ、整理する(KJ法)。
- ② その中で、国際支援につながると思う仕事を選ぶ。
- ③ 看護・児童への環境教育・スポーツ指導(バレーボール)・障害者支援職業訓練の各分野で支援活動に従事するラオス滞在日本人のインタビュー動画を見て、生き方や考え、夢に触れる。
- ④ 最初に考えた以上に多くの分野に支援の場があることを感じる。
- ⑤ 本時の感想と、国際支援は必要かについて自分なりの考えを感想用紙に書く。

この時限のねらい

お金や物ではない人による支援(マンパワー)の実際を知る。さらに、海外で国際支援に従事している人の生の声にふれ、思いを知ることができる。



(国際支援につながる仕事を選び出す)



(青年海外協力隊(看護師)の

福嶋さんへのインタビュー動画)

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ マンパワーによる国際支援にも様々な活動内容があることを感じてくれた。
- ◆ バレーボールなど国際支援に一目関係なさそうなものが関わっていることがわかり、国際支援の身近さがわかった。
- ◆ 青年海外協力隊の日本人は前向きで、キラキラしていた。
- ◆ 国際支援活動に取り組んでいる人の話を聞いて、私も人々を笑顔にできる職に就いてみたいと思った。

3 使用した教材

<教材1>ラオスで支援活動に従事する方々のインタビュー動画(福嶋さん・田口さん・本間さん・斎藤さん)

<教材2>上記方々の活動場所や支援対象である現地の方々を紹介する写真

5 時限目「不発弾処理から考える国際支援」

1 子どもの活動の流れ

- ① <授業前>朝から教室内にさり気なく置かれている不発弾の実物の殻を、それが何かとは知らずに触って遊ぶ。
- ② 動画からラオスの抱える不発弾処理問題や戦争によって大量の爆弾が投下された歴史的いきさつを知る。
- ③ 不発弾の危険性を啓蒙するポスターやシールを見て、ラオスの人々がいかに危険と隣り合わせで生活しているかの実情を知る。
- ④ ラオスの不発弾処理に対する日本の国際支援をグループで想像する。
- ⑤ 日本の国際支援(UXO Lao)を知る。活動の写真や従事する日本人のインタビュー動画を見る。
- ⑥ 日本や世界各国の ODA のデータを見る。
- ⑦ 子ども調べた太平洋戦争についての資料を確認する。
- ⑧ 今も続く沖縄の不発弾処理を報じる TV ニュースの特集動画を見たり面積当たりの不発弾の割合がほぼ等しい試算があることを知ったりする。さらに、自分たちの町浜松でも不発弾が見つまっていることを知り、不発弾処理問題を他国や昔のことではない身近な問題として捉える。
- ⑨ 本時の感想と、国際支援は必要かについて自分なりの考えを感想用紙に書く。

この時限のねらい

不発弾の怖さを感じ、さらに、不発弾処理は日本国内で今も課題となっていることを知り、国際支援と国内課題解決それぞれの大切さのジレンマの中でより広い視野をもって国際支援を考える素地を養う。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 実際の不発弾の殻を用意したことで、子どもたちの関心が非常に高まった。
- ◇ これまで大方の子どもが感想の中で国際支援は必要であり大切だと書いていたが、今回の授業を受け、国内の問題への対応を優先すべきとの間で揺れる意見が多く見られた。
- ◆ 浜松でも不発弾が見つかることがあると聞き、他人事ではないと思った。



(「朝から置いてあったコレ、何だと思いませんか?」)

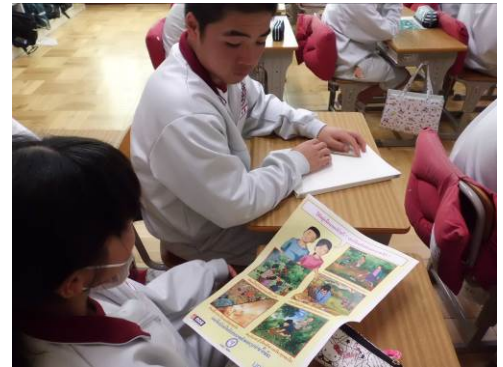
- ◆ 国際支援もとても大切だと思うけど、その大量に使っているお金をもう少し日本にも使って、まずは安心して日本で生活できるようにしてほしい。
- ◆ 日本も戦争時代には別の国に爆弾を落としたから、他の国の不発弾処理を手伝う責任があると思う。



(動画を見て不発弾の恐ろしさを知る)

3 使用した教材

- <教材1> 不発弾の殻の実物(クラスター爆弾)
- <教材2> ラオスの不発弾を紹介する動画(UXO Laos)
- <教材3> 啓蒙ポスターや危険を知らせるシール
- <教材4> ODAに関するデータ(JICA・外務省)
- <教材5> 戦争に関する調べ学習のまとめ(夏休みの課題)
- <教材6> 沖縄の不発弾処理を報じるTVニュース特集動画
- <教材7> 2013年に浜松のJR工場で見つかった処理されたことを報じるニュース(日テレHP)



6 時限目「支援を考える上で大切なこと・支援をする日本の国益」

1 子どもの活動の流れ

- ① 相談しやすい仲間です3～5人グループを作り、表題のいずれかのテーマでブレインストーミングを行う。
- ② グループごとに出た意見を全体に発表する。

2 子どもの活動の成果・反応

◇ 自国の発展のことも踏まえつつ国際支援をする、相手国のことをきちんと理解した上で支援をすることが必要、支援をされる側の自立を目指して支援すべきなど、これまで学んできた中で出てきた意見がたくさんの子どもたちから発表された。



(日本の国益について発表する)

この時限のねらい

支援をする日本側の国益はあるかという視点で国際支援を考えることができる。そして、これまでの活動を通して考察し続けてきた、支援を考える上で大切なことをまとめる。



(模造紙に入りきらないほど挙げた考え)

◇ 国際支援を行うことで世界の中での日本の

印象が良くなって他国との貿易が広がる、国際社会で発言力が増すなど、国益についても様々な意見が出た。

◆ みんなそれぞれ違うことを言っていて、友達の意見から新しい発見をすることができた。

7 時限目「まとめ・感想」

1 子どもの活動の流れ

- ① 日本の国際支援を受けた国の感謝の形をいくつか知る。
- ② これまでの活動の総括的な考察を文にしたためる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 国際支援のあり方や国際社会とこれからどう関わっていこうか、今の自分にできること、一番印象に残っている内容など、それぞれが文にすることができた(下参照)。これらの感想は、後に時間をつくって全体で共有した。この機会に考えたことをこの先の長い人生に生かしていつもらいたいと願う。

3 使用した教材

<教材1> ヴィエンチャンやメロ・マニラ空港の建設で日本のODAがあったことを紹介する楯の写真

<教材2> 日本のODAによって橋が修理されたことを紹介するパラオ「Japan-Palau Friendship Bridge」の記念切手



(紹介した、パラオの橋の記念切手)

全体を通して

1 授業を終えて (子どもたちの感想)

支援された国に関しては、支援してくれた国から教わったことをもとに、成長しようと頑張る必要があります。どんなに支援してもらっても、最終的に自分たちが頑張らなければ国の成長はないと思います。だからこそ、私たち日本は恵まれな国、成長となる、あかけ作りをしていけると思います。

私にも、バットボルのキャップくらいなら、支援できるので協力させていただきます。

私がすこし感じた事は、施設、物、お金を現地に送っていると思ったりして、人を送って、現地の人に協力することの、すこし思った。介護をする人だけでなく、スポーツを教える人として、ビョリリト。また、教えてもらっている子供達も、

人間関係でも国どうしてても、相手のことをよく知り、理解することは大切なことなんだなと思った。

2 参考文献・資料

- ・ 新・貿易ゲーム-経済のグローバル化を考える(開発教育協会)

この時限のねらい

これまで7時間にわたって活動してきたことをもとに、総括的な考察をまとめる。

私は、正直ラオスのようにとて面白い(国)には興味がありませんでした。しかし、この授業で、ラオスなどの国の現状は、地球全体として見逃してはいけない大きな問題と人々と受けました。

なくなるといけません。うまくかえは支援はとていいことです。ただ、相手の国の状態は、よく考えないで支援すると、「支援=何か迷惑になる」と思いました。なにもできない国に、「このお金のせつをおくらせてあげます。相手国にあつたものしつない」といふこともおぼしめしました。

番組み! 印象にのらしていることは、戦争は、よく覚えています。この「不発弾」があることで、映像を見ていて、現在でも、不発弾は、たくさんある人々にあつ、小さい子から大人の人まで、行にわかれらる、とれて爆発しているのを見て、心がいとて、(おしこた)を比べ、爆発は、身、足、が、取れらる(こと)。